



齊東俗談  
卷之五

ホ 2  
216  
5



本朝世談俗談

五

本朝  
A16  
5

門 216  
卷 5

齊東俗談卷之五

義訓部

愚人

左傳曰晉悼公有見不慧不辨救麥杜預注不慧  
蓋世所謂白癡白癡レシモノトヨメリ源氏帚木三頭中将  
ナニカシモシレモノ物語タシ萬葉九詠浦嶋子歌世間之  
愚人ノ音妹兒爾俗ト不堪ヲシラフト云愚人ノ轉

スルナリ

醜物

俗ゲスレフ健ナルモノヲシコブツト云日本紀一萬原醜  
男アリ此神怒形健ニ逞ユニ名クシカレハシコブツハ醜物ナ  
リ如此ノ類俗湯桶讀ト云萬葉ニ諺草我下級ニ付タシ  
ト鬼ノ醜女草今年アリケリ鬼字ヲモシコトヨメリ泉津醜

明治三十二年十一月五日

坪内雄藏氏寄贈

女モ鬼類ナリ俗又律ナルコトヲモヨキクト云如鬼字ナリ  
鬼物ノ義ナリ塩囊抄色弗字ヲ用フ

匹如

野槌日向氏文集偶吟詩眼下有衣兼有食心中  
無喜亦無憂匹如身後有何事應向人間無所求靜念  
道終深閉自閑迎禪客小低頭猶殘少許雲泉興一歲  
龍門數度遊沙石集第四此詩ヲ載曰匹如上云一人一  
物モ手ニモタテ行自ナリ下郎ハスツスミト云ナリ應向ハ  
足フミタテスト云コトナリ所住ナクシテ杖ツクホトノ地モ  
持スト云カ如シ一物モ不貯少地ヲモ持スシテ奔ハテヌ  
ル身ハ萬世間ノコトナクシテ佛道修行シツヘシ匹ハ匹夫  
ノ義ニテ無一物ノ獨身ナルヲ云トアリ  
今按無住下

郎ハスツスミト云トイヘル本ハスツベト云スツヘノ皮モ持ス

ト云世クダリヌレ俗語モイマシクナルニヤ

片輪

釋氏要覽曰長阿含經二肘二膝頭項謂之五輪  
輪者圓轉之義也亦云五體此五所圓ニシテ上下ニ迴轉  
スルコト車輪ノ如ナルニ五輪ト云五所全カラサルハ即片  
輪ナリ源氏未摘ヲツキテアナカタワトミユルモノ伊勢  
物語ニカタワナリ身モ亡ナシ患見披片輪トカケリ心ノ人  
ニシカウルヲモ片輪ト云ヘシ

直也人

詩經定之方中篇匪直也人秉心塞淵ヨノツ子ノ  
人ニスクタルヲ云源氏若菜上夕人ノ中ニアリカタニ或ハ  
凡人ヲ多ドフトヨムナリ

若干

萬葉三千萬字ヲ用フ。伊勢物語ソコハクノサケモノ

闕疑抄

ニソコハクハ。幾許ナリ又見九言部

皆悉

萬葉ノ讀ナリ常ニハ悉皆ト偈フ

小端

ハシノスコシニユナリ倭名抄ニ兩節間三字ヲヨトヨ

戀

ムカトシ萬葉ニ此山ノ黃葉ノ下ノ花ヲ我小端ニミテカレ

清々

心ノ潔ヲ云日本紀素盞鳴尊到出雲之清地乃言

曰吾心

清々清地此云素盞

四垂

萬葉ニ亂尾シタリヲトヨメリ又無柳又四垂字ヲ

用フ

際ヲスキト云透階ナリ萬葉ニ入風トカケリ

入風

際ヲスキト云透階ナリ萬葉ニ入風トカケリ

一二

文選長楊賦不能一二其說又司馬遷書ニ三ヘ夕

月代

俗或半月字ヲ用フ沙石集六ニ月代アル入道撰

集抄

ニアサニシクヤツレタル僧近ク家ヲ出ニケルトニハ

月シロナト

アサマカニニユメリ月代字ヲ用ヘキニヤ

耳言

萬葉ノ讀ナリ中華書啞耳語又囁嚅ツメクナ

リ小語私謀貌

リ小語私謀貌

家裏

萬葉ニ梅花先咲板ヲ手折テハ裏ト名テヨソヘテシ鴨又

土産都産田舎土産等ノ字ヲ用フ

土産都産田舎土産等ノ字ヲ用フ

悒憤

萬葉ノ讀ナリ又馬聲蜂音石花蝶トアリ

卒爾

字義見九言部

卒爾

字義見九言部

精進

俗索齋スルコトヲ精進ト云佛書勤行精ニシテ進  
修スルコトニ云リ身精進心精進ノ二種アリ倭訓イモイト  
ヨメリ

隨意

萬葉ノ讀ナリ意ニカスル義ナリ中華詩ニモ隨意  
殘花寂寞開庭草無人隨意綠等ノ句多シ○又隨字  
ガリモニトヨムナリ中庸曰率性之謂道朱子ノ説ニ據  
キハ率トハ萬物自然ノ性ノニニチビク義ナリカラ用ニ  
コレラヘシタガフ意ニアラス隨字ノ讀ハ率字ノ義也ト云リ

氈毼

塩囊抄紙ナトクタクムト云ハ何字ソ氈毼ヲラフ  
タクトヨム此字ハ心地觀經ニアリトイフハ點ノ經アルヲ  
按字書氈毼散毛貌獸ナトハ毛ヲフルヒチラスハラクタクム

ト云ヘシ源氏紅葉賀ニシテナクナク打フクタクニ給ル髮華又  
紅卷ニ少フクタクニタニ髮ノカマリ

不意

或率爾ヲユクリナシトヨメリ心ナラス思カケモナキ  
義ナリ源氏夕鳥ニイサヨフ月ニユクリナク若紫ニユクリナフ  
モノフカキヲミシ所水原抄ニユクリナキハトリアハ又心ナリ  
下郎多クモナキト云ユクリナキノ轉スルナルヘシ用意ナキ  
ヲ云

無趣

野槌曰ハ雲抄ニ事ノ外ナリトアリ河海ニハ無趣ト  
モ閑雅トモカケリカキリモナシト云義ナリ閑雅ハ出云ノ  
義ニ通スヘシ

羗是

河海曰白氏文集ニ羗是ヲシナマカトヨメリ

形勢 野槌曰日本紀ニ形勢ヲケハヒトヨメリ新猿樂記  
景氣トカケリ

溟滓 日本紀ノ讀ナリ分明ナラサルナリ

初穂 又最華字ヲ用フ穂禾類ナリ古人登礼薦新ノ  
名アリ初穂ハ新穀ヲサシ義ナリ又最華ハ一切草木

最初ノ萃ヲトリテ神ニ供スルユニ云爾下學集ニニハタリ  
塩垂 神事式忌詠ニ注コトヲ塩垂ト云源氏須磨ニイタ

フシホタレタラ波ニテヌレタル綿ヲ塩垂衣ト云ナリ

黃泉 萬葉ニ黃泉ノ界

端正 萬葉ノ讀ナリ野槌曰キラノ美麗ノ義ナリ

聲花 河海曰白氏文集ニ聲花ヲハナマカトヨメリ

人望 日本紀ニ無人望ヲ云ヒシトヨメリ

類墮 源氏桐壺ニクオオシフ思クツラレ河海ニ類墮トカケ

リサリトモト思コロノ退屈スルハ類オツルカ如シ

求食 萬葉ノ讀ナリ文選司馬遷書搖尾而求食法華

經處々求食下學曰鳥ノ食ヲモトルヲ求食ト云蓋月

本俗ノ世話ナリ按定家郷ノ歌ニヨラハタニナレ又草モナ

カリケリ早蕨アサル山ノ便リニ能因カ歌枕ニ海人ノカイツ

モノトルヲハアサリスト云徒然草ニホラヌ所モナク山ヲアサ

レトモナカリケリ山ニテモ海ニテモ食フヘキモノヲ求ルヲハ

鳥ニカキラス求食ト云ヘキニヤ下郎ノアツルトイヒラセル

ト云ハ求食ナルヘシ

求食

武夫

日本紀神武天皇時宇摩志麻治命道臣命ト而  
人内裏ヲ警衛ス道臣命ノ兵士ヲ八束目部ト云宇摩志  
麻治命ノ兵士ヲ物部ト云古武士ヲ物部ト云コトハコシヨ  
リ起レリ職原抄ニ八道臣命ヲ物部氏ノ祖トス與日本紀  
相違ノコトアリ又見典故部

影護

河海抄影護ヲウシロメダシトヨメリ

黃昏

俗黃昏ヲタソカレト云誰彼ノ義ナリ源氏初音ヲ  
レタソ時ナルニ又黃昏ヲ云レシト云昏鐘時ナリ吾郷  
俗黃昏ヲ王莽時ト云晝八前漢夜ハ後漢自氣既ニ没  
レ夜氣イマ夕萌サレハナリ明王守仁ト晝夜ヲワケテ太  
古ヨリ戦國マテノ氣象ヲ教スルコト傳習録ニアリ因

俗晝ヲ西漢トシ夜ヲ東漢トシ黃昏ヲ新室トス氣象  
モ亦相似タリ

禁歷

日本紀ノ讀ナリ

冷眼

孟津抄ニニハタリ

衡黑

東坡集五莫遣兒曹取次知同十五欲放扁舟取  
次行釋氏要覽五部衣得取次着否次第ナキ義ナリ

取次

下学集取次筋斗源氏梅枝ニシドロモドロニ愛敬ツキ  
一入 周礼考工記三入為纁五入為緹七入為緇善相  
公意見封事袖ヲ一入再入ノ紅ニソメ衣ヲ千聲萬声  
ノ砧ニサク又味ヲコクセンタメニ酒ヲ以テ酒ヲ造ヲ醞ト云



日本紀。醜ヲ。シホトヨメリ。是又一入ニ入ノ義ナリ。俗詞  
ノ。身ノ。シホ等。醜字ノ義ナルヘシ

白地

又暫字ヲヨメリ。シハラクノ内ヲ云ナルヘシ

花心

源氏寄木ニ花心ニオハスル宮ナレハ俗始アリテ終ナ

キコトヲ。一花ト云

受張

孟津抄。諾字ヲ用フ。又承諾ヲウケハルトヨムナリ

長閑

春日ノウラナルヲ云東坡内制集五。仙家日月本長

閑東福寺。閑山聖一國師重陽ノ佛事ノ時高座ニ上テ

陶彭澤詩。採菊東籬下。悠然見南山。上訓點シテ吟セラ

レシカ。滿座入興スト云ツタフ

列卒

萬葉ニ射圃字ヲ用フ。又選西都賦。列卒周匝。子

虚賦。列卒滿澤

東風

萬葉十七ニシヘタリ。越ノ土民。今アイノカゼト云ナリ

宿直

文選謝靈運詩。題註直。禁中ニ宿シテ非常ニ備

ヲ云

褻晴

野雉曰。褻ハナレタル義ナリ。晴ハ法。礼ノ義ナリ。又

私公トモカクヘシ。常ニキルモノヲケコロモト云。朝服礼服ヲ

ハキスト云。按詩經。葛覃。朱傳。私。燕服也。衣。礼服也。私ヲ

ケノコロモトヨミ。衣ヲハキストヨメリ。韻會曰。說文。褻。私服

又衣ノ破タル餘ヲモ褻ト云。衣服ニカキフス。公。男ヲ晴ト

云。ワタクシコトヲ。褻ノコト。云ナリ。職原抄。晴時。雖下。臆着

之ヲ

首途

解除

神書解除ノ名アリ萬葉ニ解除ニシテ

云云

古人之語云云ト云ハ言ノ多義ナリ日本紀ニ云云ラ

シカクトヨメリ河海ニ色々ノイヒコトハ云義ナリ又然々ト

カキテシカクトヨムコトモアリコレハ如此々々ノ義ナリ方葉

時勢粧

野槌曰白氏文集新樂府ニ時勢粧トカキテ今

分野

下学集分野有様之義也日本天台宗ノ讀習也

弘決第一其地分野トヨメリ文選魏都賦列宿分其野

二十八宿四方ニ配シテ九州各ツカサハ星紀アリコレラ

分野ト云分野ヲアリサトモヨムヘシ太平記鈔ニ夫官書

ナトニ多ノ国々ノ分野ト云コトアリソレハアリサト云コトニ

亦復

佛經ニ下根ノ衆生ノ機ヲ調テ一實ニ帰セシムヘキ

タメニサマノ權教ヲ設テ疑ヲ置シルヲ方便ト云方トハ

方法ナリ巧ニ諸法ヲ用テ機ニシタカロ物ヲ利スル義ナリ

販女

源順倭名抄文選西京賦曰裨販夫婦俗販婦ト

サキメトヨメリ字彙賤買貴賣曰販商人ノ下女ヲ販婦ト

云ナリ

**舉動**

テ用フ

韻會舉立也。動也。今振舞トカクハ舉動ノヨミヲ備

**鬱悒**

萬葉ノ讀ナリ。常ニ不審ヲイフカシトヨムナリ

**努カ**

韻會努勉也。用カ也。萬葉ニ勤字ヲユメトヨメリ

**伴嘆**

俗怒コトヲ腹立ト云。人ノ七情皆心腹ニツクムユヘニ言

田兼好ハオホシキコトイハヌハ腹フルト云。眉山蘇氏ハ忍

事腹如囊ト作レリ。又腹黒ト云モ心腹ニ思アル義ナリ。

日本紀發憤ヲムツカルトヨメリ。伴嘆ハ遊仙窟ノ字ナリ。

**心操**

**徒然**

字彙徒然也。俗閑寂ニシテナスコトナキヲ云ナリ。或

冷然字ヲツレトヨメリ。

**周章**

字書章與璋同懼也。周章ハ多ツレトフ義ナルヘシ。又

見九言部

**荒猿**

或有増下學集。淺猿荒猿皆倭俗ノ世語ナリ

**中々**

俗語ノ中々ハ領兼シタル詞ナリ。倭語ニチカクトツ

名分ハリテト云。詞ニ通ス。此五文字。歌ニヨミオホヒカタ

キヨシナリ。中々ニト云。出シテ始終云ツメサレハ龍頭蛇尾

ノ病アルユヘナリ

**乞兒**

源順倭名抄乞兒ヲカタイトヨメリ。伊勢物語ニカタ

イ籙土佐日記此楫取ハ目モ又ハカラハヌカタイトナリ。皆人

ヲ罵詞ニ用フ。惣乞丐人ヲ云ヘシ

**目安**

俗公義へ訥ル狀ヲ目安ト云。居家必用ニアリ。詳見

凡言部

遠近

下即語ヲナト云ハ遠ナリコナハ近ナリアトヲト喉音相通ス稚子ノ語ヲ習モノ味嘗ヲムト云唇音古音相通ス皆五音ノ轉スルナリ

假名

羅山文集曰本朝又シク片假名ヲ用フ其始五音ヲ以テ通用シ漢字ニ點シテ譯讀ニ便ス蓋吉備公ヨリハシメリ其後石洲寺勤操延曆寺最澄高野空海四十七字ノ以呂波ヲ唱和ス元皇明際陶南村書史會要作テ日本ノ字ヲ載タリ即今ノ以呂波ナリ河海曰今世ノ假名ハ弘法大師ハシメテ作レリ以前ノ假名ハ日本紀萬葉等ノカキヤウナリ日本紀モ聲ヲ假テカケル萬葉集音

ト訓ト義トヲ以テカケリ法華方便品但以假名字引導於衆生又漢字ヲ真名ト云源氏梅枝ニシテスハ三夕ルホトニカシハシトケナキ文字ソニルル王佐日記漢字ヲ男文字ト云假名ヲ女文字ト云

同和

清和融和等遲自ノ晴朗ヲ云リ同和ヒヨリトモヨムキニヤ○嘗聞東奥ニ野アリ天氣晴和ノ時人馬往來ノ形アリテ城郭儼然タリ就テミルハアルコトナシ又影沼ト名ル所アリ遙ニ望メハ水波漫々トシテ一望無涯飛鳥カケラウツシ馬蹄波ヲハラフ按史記天官書曰海旁振氣象樓臺廣野氣成宮闕然雲氣各象其山川人民所聚積許林載登州志曰登州西南去海五里春夏ノ

時遙水面ヲミレハ城郭市肆アリテ人馬往來ス土人コ  
レヲ海市ト云。按ニ海市ハ春夏ノ景ナリ即太史公カ所  
謂樓臺宮闕ノ氣ナリ人馬往來ノ状ハ即晉志所謂魯  
雲如馬秦雲如行人ト云モノナリ東奥ノ野ノ氣ハ即登州  
ノ海市ナリ樓臺宮闕ノ人馬往來皆氣ノ結トコロナレハ海  
上野外隔ナルヘシ天竺ニモ此ノ氣アリ月ハニメテ出ルトモ  
城門樓櫓宮殿アリテ行人出入スルヲミル月轉高ク  
ハ轉減ス但眼ニミルヘクニテ實アルコトナシ。乾闥婆城  
ト名ク翻譯名義集祖庭事苑并大論第六ニ三ヘタリ世  
ノ邪說ニ欺ルモノ富士未迎月山未迎ト云モ此ノ氣ナリ  
太史公所謂雲氣各象其山川人民所積聚ト云コトナシ

く信スヘシ又影沼ハ春夏之交地氣ムシノホリテ月ニ映  
スル景ナリ莊子所謂野馬ナリ田間游氣ナリ又コレヲ  
遊絲ト云近クミレハ實ナキコトハ積氣ナレハナリキ人野ヲ  
名テ景沼ト云コトナキニアラス。越ノ後州ニ地中ヨリ  
ツル油アリ其所ヲ草水村ト云始流ニシタカヒテ浮出ヲ  
土民草ヲ以テソキトリテ燈燭ノ料トス又鍛冶屋敷  
ト云村ニ小民アリ其家竹筒尺許ナルヲ土間ニサシテ火  
チヲ以テ火ヲトリコレヲ筒上ニヒケハ光炎モハイテヤハス  
筒モ又不焦小民ノ家往々ニ黒土ヲ乾シテ薪ニ代ス件  
件予親ミルコトヲ得タリ天智天皇時越州ヨリ燃土燃  
水ヲ獻シコト国史ニ記セリ燃水ハ草水ノ油ナルヘシ琅

邪代醉編卷三曰升庵曰火井在蜀之臨邛今嘉定捷  
為有之其泉皆油熱之則然人取為燈燭又云朱兼器  
曰火井在雲臺山之東五里火自井出周圍有塩竈數  
十環之各以大竹刺其中引火至竈鍋滾而竹不燃不  
用時以蓋蓋之用時去蓋投火必許即騰々炎上至今  
近井數十家擅其利云 大明一統志七十二曰嘉定  
州捷為郡火井在邛縣西八十里蜀都賦注先以家火  
投之須臾光焰上騰以竹筒盛之接其光而無炭也  
又尼波羅國北印度之屬國十川都城東南遠カラス  
テ水火村アリ其口蜀ノ火井ト似タルニ畧之法苑珠  
林三十八引西域傳詳ニルセリ倭ニ支事蹟相似カ  
コトヲ思テ童子ニ知シム

出葉

ト部兼俱神代鈔曰テニトハ出葉ト書ナリ  
トキハ何ノ木何ノ草ト云コトヲワキマヘサレトモ葉出ル時  
イタリテ其名ヲ知カコトニ漢字ノ難解ナトニ倭字  
出葉ヲ付シハ其葉アラスヤスニタトハ葉出テ屬  
木ノ名ヲ知カコトニ



